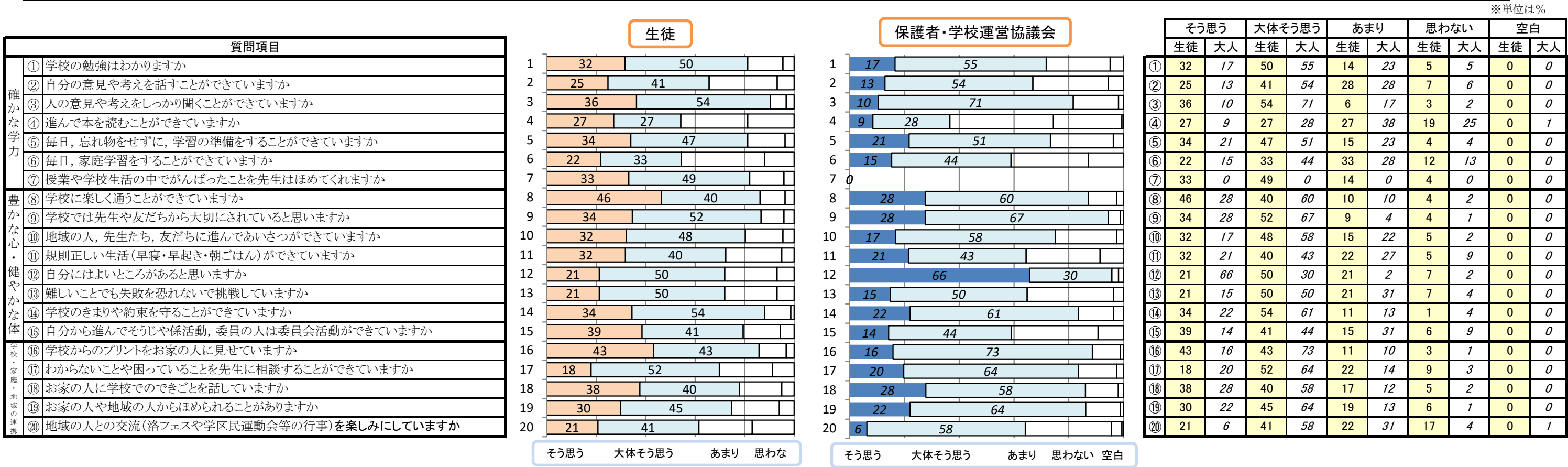


○目指す子ども像(ブロック共通) 夢の実現に向けて、共に楽しく学び、たくましく伸びていく子の育成
重点目標(児童生徒の共通する課題より) (1)コミュニケーション能力を育成するための“言語活動”を充実する。～つながる・深める・伝え合う～ (2)児童生徒が主体的に活躍できる場面を設定し、自己肯定感や自己有用感を高める。
○洛西中学校めざす生徒像 ①「学ぶ楽しさ」と「わかる喜び」を実感し、夢や希望に向けて主体的に学習に取り組む生徒〈知〉 ②自分や仲間の良さや違いを認め尊重し、支え高め合える生徒〈徳〉
③ 命を大切にし、健康で安全な生活を心がけ、明るく活き活きと生活できる生徒〈体〉



「確かな学力」 (アンケート番号①～⑦)

今回のアンケート結果から見えてきたことと、これから意識的に取り組んでいくことを、以下に記載します。

① 基礎的・基本的な知識・技能の定着

アンケート①「学校の勉強はわかりますか」について、「わかる」32%、「だいたいわかる」50%で、82%の生徒が「概ねわかる」と回答しています。この結果は、昨年度の同時期とほぼ変わらない結果です。(一昨年度より昨年度は10%上昇しました。)授業の中で、既習の学習内容との関連付けを重視し、知的好奇心をくすぐるような導入・発問の工夫、スモールステップで「できた」や「わかった」の喜びを体験させることができる展開の工夫等、今後も授業改善に努めていきます。

② 思考力・判断力・表現力の向上

アンケート③「人の意見や考えをしっかりと聞くことができていますか」について、90%の生徒が「概ねそう思う」と回答し、思考力や判断力の土台となる「聞く」ことは、安定してできるようになってきています。しかし、アンケート④「進んで本を読むことができていますか」については、「概ねそう思う」が54%であり、思考力や判断力を高める「読む」ことについて、課題があります。そして、アンケート②「自分の意見や考えを話すことができていますか」については、「概ねそう思う」が65%で、思考力・判断力・表現力に課題があると言えます。まずは、誤ってもよいという雰囲気づくりを行い、自分の意見や考えを組み立てて発言する場面を意図的につくるように努めていきます。そして、「書く」ことを通して、論理的思考を高め、自信を持って自分の意見や考えを話すことができるようにしていきたいと考えています。

③ 家庭学習の習慣化

アンケート⑥「毎日、家庭学習をすることができていますか」について、「している」22%、「だいたいしている」33%でした。半数弱の45%が「あまりしていない」であるので、義務感ではなく、自らの進路実現・自己実現のために、頑張るんだという意識を向上させるように働きかけていきたいと思います。

今回のアンケート結果から見えてきたことと、これから意識的に取り組んでいくことを、以下に記載します。

① 豊かな心の育成

アンケート⑧「学校に楽しく通うことができていますか」については、「そう思う」46%、「だいたいそう思う」40%で、86%の生徒が「概ねそう思う」と回答しています。この結果は、昨年度の同時期とほぼ変わらない結果です。(一昨年度より昨年度は11%上昇しました。)学級活動や学校行事(学校祭体育の部や文化の部)また部活動等を通して、仲間づくりが推進され、学級が誰もが安心できる居場所となっていてきていますと捉えています。残りの14%の生徒も、「概ねそう思う」になるように、今後も寄り添いながら適切な支援を行っていきます。

アンケート⑨「学校では先生や友だちから大切にされていると思いますか」については、「そう思う」34%、「だいたいそう思う」52%で、86%の生徒が「概ねそう思う」と回答しています。教員が生徒の良いところを見つけ、時を逃さずほめ、学級・学年通信で紹介するなどにより、生徒の自己肯定感や自己有用感が高まってきたと推察しています。アンケート⑩「自分にはよいところがあると思いますか」の「そう思う・だいたいそう思う」71%が、さらに向上するように、今後も生徒を中心に据えて取り組んでいきます。

② 基本的生活習慣の確立

アンケート⑪「規則正しい生活(早寝・早起き・朝ごはん)ができていますか」について、約3割の生徒が「あまりできていない」と回答しています。規則正しい生活のリズムは、体調管理に結びついています。遅刻や欠席がさらに減るように、家庭と連携しながら働きかけを行っていきます。また、体の成長が著しい時期であるので、適切な食事が大切であることを、学活や懇談会等、いろいろな機会に生徒・保護者に伝えていきます。

今回のアンケート結果から見えてきたことと、これから意識的に取り組んでいくことを、以下に記載します。

① 家庭・地域との連携

アンケート⑯「学校からのプリントをお家の人に見せていますか」については、「そう思う」43%、「だいたいそう思う」43%で、86%の生徒が概ね学校からのプリントを見せ、学校と家庭がつながっていると言えます。残り14%の生徒もきちんと見せてくれるように、今後も働きかけていきます。

アンケート⑱「お家の人に学校でのできごとを話していますか」⑲「お家の人や地域の人からほめられることがありますか」について、78%の生徒が「話している・だいたい話している」と答え、75%の生徒が「概ねほめられることがことがある」と回答しています。親子のコミュニケーションは、子どもたちの活力になります。また、善意(適切な判断)に基づく行動があった時は、時を逃さず、ほめてあげることは、子どもたちの自尊感情を高めることにつながります。思春期の真只中にある生徒たちと学校・家庭・地域の大人とのつながりを、より確かなものとする通して、生徒たちの健やかな成長に結びつけていきたいと思います。

アンケート⑳「地域の人との交流(洛フェスや学区民運動会等の行事)を楽しみにしていますか」について、「そう思う」21%、「だいたいそう思う」41%です。地域社会とつながり、地域社会に貢献できる人材になっていってもらうために、地域の人たちとふれ合える地域行事を大切に、周りの大人への感謝の気持ちを育んでいきたいと思います。そのことが、社会貢献できる人材につながっていくことと思います。

② あいさつの習慣化

アンケート⑩「地域の人、先生たち、友だちに進んであいさつができていますか」については、80%の生徒が「概ねしている」と回答しています。あいさつは、人と人のコミュニケーションの入り口の役割を果たすことであり、今後もしっかりとできるように働きかけていきます。